

今週の為替相場見通し(2021年10月11日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.82 ~ 112.26	112.22	111.40 ~ 113.00
ユーロ	(ドル)		1.1529 ~ 1.1640	1.1575	1.1500 ~ 1.1600
(1ユーロ=)	(円)		128.36 ~ 129.90	129.90	128.50 ~ 130.75
英ポンド	(ドル)		1.3532 ~ 1.3661	1.3620	1.3500 ~ 1.3650
(1英ポンド=)	(円)	*	150.14 ~ 152.94	152.78	151.50 ~ 153.50
豪ドル	(ドル)		0.7226 ~ 0.7338	0.7310	0.7250 ~ 0.7390
(1豪ドル=)	(円)	*	80.49 ~ 82.08	82.02	80.50 ~ 82.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 上野 智久

(1)今週の予想レンジ: 111.40 ~ 113.00 円

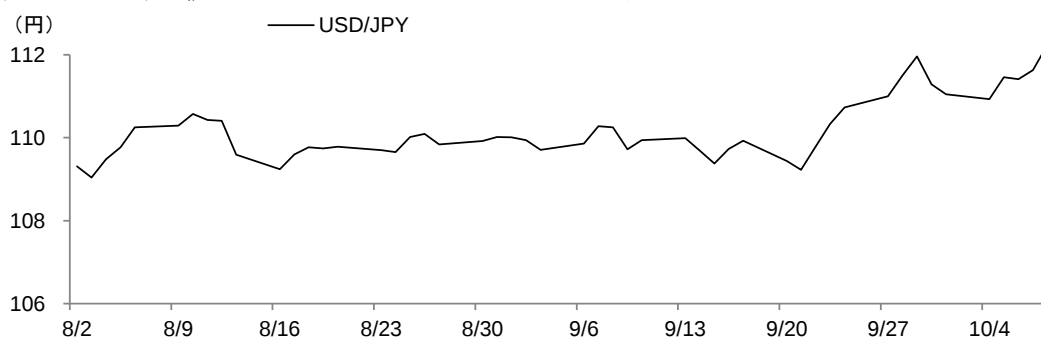
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週半ばにかけて上昇。週初4日、米長期金利の反発を横目に111円台前半まで上昇するも、株価の軟調推移や米債務上限問題を巡る動向が嫌気され、ドル/円は一時週安値の110.82円まで反落した。5日、米長期金利や主要株式指数の上昇に加え、米9月ISM非製造業景気指数の良好な結果を好感し、ドル/円は111円台半ばまで上昇した。6日、ドル/円は前日の流れが継続し、111円台後半まで続伸。しかし、株価の急落を受けて111円台前半まで下落。その後は原油価格の上昇が一服し米株が上昇に転じる中、111円台半ばまで持ち直した。7日、ドル/円は111円台半ば付近での堅調推移も、翌日に米9月雇用統計を控え様子見で小幅上昇にとどまった。8日、序盤は米9月雇用統計を控え様子見ムードが強い展開。注目された雇用統計は市場予想を大きく下回る結果となり、発表直後はドル売りで反応。しかし、前回値が上方修正されたほか、失業率が予想以上に改善したこともあり、その後は米金利が再び1.6%を目指す動きにドル/円は112円を回復。その後もじわじわと上昇し、年初来高値112.08円、2020年高値112.23円も上抜け、112.26円まで上昇し、112.22円でクローズ。

今週のドル/円は堅調な推移を予想。先週の米経済指標週を消化。注目された米9月雇用統計では非農業部門雇用者数は+19.4万人と市場予想(+50万人)を大きく下回る結果となるも、米金融政策の計画は変わらないとの見方を背景に市場への影響は限定的。週後半にかけては米金利が上昇し、加えてコモディティにも需要ひっ迫の警戒感が強まる中で、ドル買いが優勢の地合いとなった。今週は12日(火)にFOMC議事録要旨が公表されているが、9月FOMCでは11月のテーパリング開始や22年の利上げが示唆されており、今回の公表でマーケットインパクトのある材料が出てくるとは考えにくい。基本的にはドル需要が高い状況が続くのではないかと。

(3)先週までの相場の推移

先週(10/4~10/8)の値動き: 安値 110.82 円 高値 112.26 円 終値 112.22 円



2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 大庭 泰典

(1) 今週の予想レンジ: 1.1500 ~ 1.1600 128.50 ~ 130.75 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は軟調に推移した。週初4日、1.1610付近でオープンしたユーロ/ドルはアジア時間に香港株式市場での中国恒大集団株取引停止報道にリスクオフが意識されるも、中国連休により参加者も限定的となる中1.15台後半まで値を下げた後、欧州株の堅調推移やドイツを巡る政局不透明感の後退を背景に一時週高値の1.1640まで上昇した。5日、1.16台前半で推移していたユーロ/ドルは米長期金利上昇に伴うドル買いの流れの他、中国の不動産会社をめぐる信用不安やコモディティの上昇によるインフレ懸念を背景としたリスクオフのドル買いを受けて1.15台後半まで値を下げたが、米株の堅調推移が好感され、1.16付近での小動きとなった。6日、NZ準備銀行の金融政策決定会合があり、政策金利が25bp引き上げられたもののユーロ/ドルへの影響は限定的。米長期金利上昇と株安に加え、独8月製造業受注が悪化して欧8月小売売上の予想が下振れしたことが嫌気され、一時ユーロ/ドルは1.1529まで急落し年初来安値を更新した。一巡後はユーロ/円上昇に連れ高となって1.15台半ばまで値を戻すも追加材料に欠けて上値は重かった。7日、米金利上昇を受けてドルが買われていたが、株式市場の堅調推移を受けてユーロ/円が買われていたことから連れ高となり、1.1569まで上昇。午後に入ると米株の上昇は一服するも、米金利は上昇を続けていたためか、ドル買い優勢の展開となり1.15半ばまで反落。週末の8日は米雇用統計の結果を受けてドルが売られたことから1.1586をつけるも、米金利上昇を睥睨したドル買いが更なる上昇を抑制。午後是对円のユーロ買いと米金利上昇を意識したドル買いが綱引き状態となり、ユーロ/ドルは1.1570付近でレンジトレード。最後まで方向感はず、結局同水準で越週した。

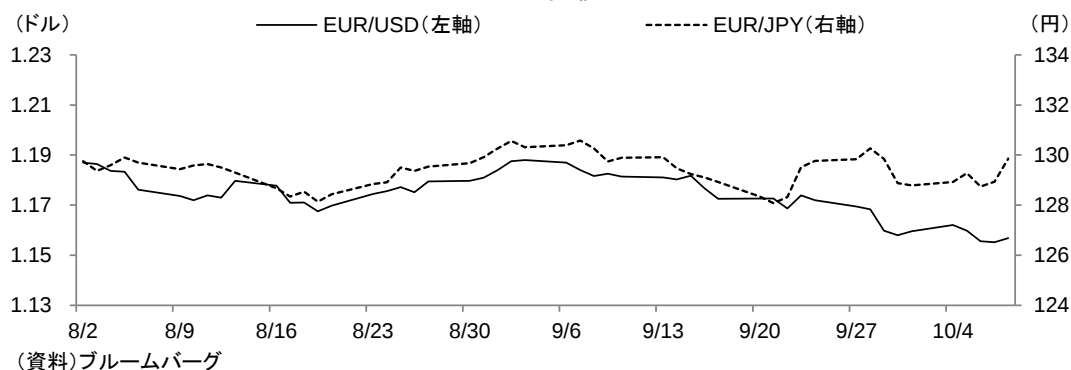
今週のユーロ/ドル相場は引き続き狭い値幅の中、上値の重い推移を予想。米国は12日(火)に公表されるFOMC議事要旨(9月開催分)で22年以降の利上げ路線を再確認することとなろう。一方で、欧州では7日(木)にECB政策理事会議事要旨(9月開催分)が公表された。市場関係者は12月の理事会の論点は緊急購入プログラム(PEPP)の廃止方針およびその代替措置について、テーマとなると考えており、利上げ時期の議論はその後となりそう。引き続き欧米の金融政策の違いからドル買い、ユーロ売りが優勢となろう。今週の経済指標は12日(火)欧10月ZEW景気期待指数、独10月ZEW景気期待指数、13日(水)欧8月鉱工業生産、15日(金)欧8月貿易収支の他、週末はIMF・世界銀行年次総会が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(10/4~10/8)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1529 高値 1.1640 終値 1.1575

(対円) 安値 128.36 高値 129.90 終値 129.90



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3500 ~ 1.3650 151.50 ~ 153.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドルで堅調気味の横ばい。対円でも堅調気味の横ばいを支配的としたが、週明け間際の円全面安を受け、頭ひとつ水準を切り上げた。対ユーロでは、値幅は限定的ながら、ほぼ一方的な堅調を続け、明確に水準を切り上げた。こうして振り返れば、ポンドは、主要通貨に対して全面高だったと言えたが、ポンドを押し上げた要因は、値動きほど明確ではなかった。敢えて挙げるなら、5日発表された英9月サービス業PMI確報値などが、速報値から上方修正されたことを好感した可能性は考えられた。また、この間、英国内では、燃料価格(ガス/電気)上昇や、(供給障害に起因する)食品不足による物価上昇などが、連日、盛んに報道されており、物価上昇が英中銀早期利上げ見通しにつながり、ポンドを押し上げた可能性も考えられなくもなかった。7日には、新任の英中銀チーフエコノミストで金融政策委員会メンバーのビル委員が、英インフレの長期化を警戒する発言をし、市場の一部で、早期利上げ期待を強めた可能性も考えられた。6日のポンド反落(対ドル、対円)は、円全面高の余波のようにも見えたが、円高要因もはっきりとはしなかった。中国大手不動産会社の債務不安がリスク回避の円高を招いたとの見方もできたものの、当該企業の債務不安はここ数週間くすぶり続けており、6日になって改めて材料視するような新規要因があったとも思えなかった。その後、通貨市場の関心は、8日の米9月雇用統計に移っていった。発表された非農業部門雇用者数数の伸びは、2か月連続で市場予想を大幅に下回り、発表直後ドルは全面安に振れたものの、あっけなく底打ち反転。ポンドも週の高値からは一段水準を切り下げて週の取引を終えた。

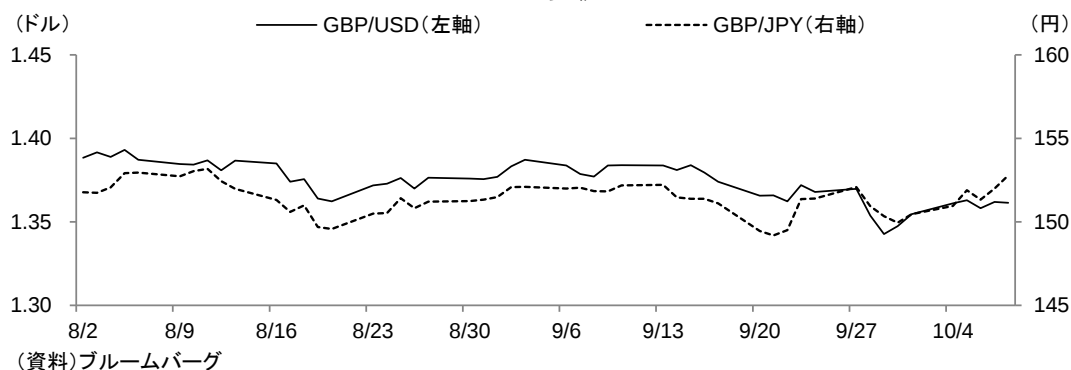
今週の英ポンド相場は、軟調予想を中心に、下押しを警戒。ポンド安を見込むのは、足下の英中銀早期利上げ観測が行き過ぎと感ずるから。早期利上げ観測の背景には、足下物価上昇は勿論のこと、①米連銀のように「雇用の最大化」という目標が果されていないこと(物価の安定だけ) ②資産購入(量的緩和)の終了を待たずに利上げに踏み切る姿勢を示していることが大きく影響している。ただし、英国内の各種報道で足下盛んに取り沙汰されている物価上昇圧力は、与党保守党の政策運営に対する批判という形で取り上げられている感が強く、一般消費者の目線で、生活が困窮している中、物価上昇圧力だけを理由に英中銀が早期利上げに踏み切ることができるか、甚だ疑問に思われる。確かに、英中銀の責務に、景気浮揚や雇用安定はないものの、物価上昇が警戒されるからと言って、杓子定規に利上げに踏み切れるとも思えないし、景況感という目線で、利上げに向けたハードルは、米連銀のそれよりもむしろ高いようにすら感じられる。もう一点、中期的な目線で気掛かりなのが、与党保守党の迷走。英各種経済団体などは、深刻化する労働者不足を補うため、夏前から、EU国籍の労働者に一時的な就労ビザを供給するよう、政府に働きかけていた。それに対し政府は、「英国人を雇え」と木で鼻を括ったような対応を続けてきたが、ここにきて一転、「クリスマスまでの期間限定ビザを合計10,500人に供給」と方針を変えた。だが、クリスマス前の繁忙期に向け、労働者不足は、一説に10万人規模などとも言われており、引き続き「遅過ぎる、少な過ぎる」との批判は極めて強い。また、ジョンソン首相は6日の保守党大会の演説で、「人手不足は賃金上昇を促し(労働者にとって)むしろ良いことだ」という趣旨の発言をしたが、「一般市民の生活感覚からかけ離れている」との批判を浴びた。総選挙はまだ少なくとも1年半以上先で、政権の支持率低下が、安直な財政出動などにつながるとは考えないものの、英経済の先行きを不安視する要因にはなっても、安定成長に自信を深める要因にはならないだろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(10/4~10/8)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3532 高値 1.3661 終値 1.3620

(対円) 安値 150.14 高値 152.94 終値 152.78



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 原田 和忠

(1) 今週の予想レンジ: 0.7250 ~ 0.7390 80.50 ~ 82.50 円

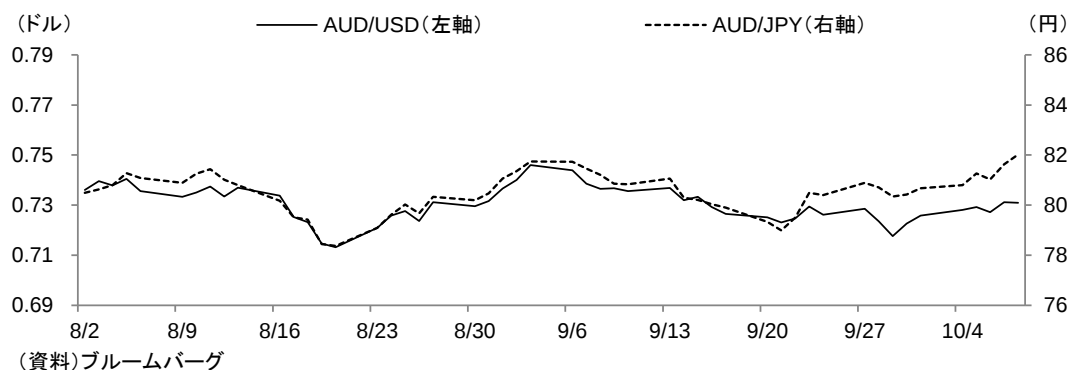
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルはRBA理事会など中央銀行イベントや米雇用統計などのイベントがあったものの、概ね0.73ちょうど近辺のレンジでの推移に終始した。4日は、0.72台後半のレンジで推移した。午前中は中国の不動産開発大手の株式が香港市場で停止との報道が嫌気されるなど、リスクオフの流れから豪ドルはやや重く推移。海外時間ではOPEC+の会合で大幅増産が回避され原油先物が大きく上昇する中、米株は反落するもNY引けにかけて豪ドルは0.72台後半を維持した。5日は、引き続き0.72台後半での推移となった。ロンドン入りにかけて0.7250まで下げるもNY時間で米株が堅調に推移すると再び0.73へのせる場面もあるなど、同レンジ内での動きとなった。日中にはRBA理事会の結果が発表された。政策は現状維持、景気見通しに関しては、10～12月にプラス成長を回復し、2022年後半にはデルタ株拡大以前の軌道に戻ると予測した。利上げの時期については2024年より前に条件は満たされないとの認識を繰り返した。6日は、0.7290近辺でスタートし、ロンドン時間に0.7230近辺まで下げるもNY時間に米ADP雇用統計が予想を上回った事や共和党が民主党に対して11月までの債務上限引き上げで合意する案を明らかにした事でドル買いが優勢となり、再度0.72台後半へと戻した。RBNZ理事会では大方の市場予想通り、7年ぶりの利上げが発表され、NZ政策金利は0.25%→0.50%へ引き上げられた。7日は、底堅い推移となった。ロンドン時間でロシアが「世界のエネルギー市場安定化を支援する用意がある」と発表した事を受け、エネルギー危機に対する懸念が和らいだ事から0.73台へ上昇。その後、米上院で債務上限が12月3日まで引き上げられる見通しとなり、引けにかけて米10年債利回りが1.57%台まで上昇し、豪ドルは伸びを抑えられる形となった。8日は、豪株価がオープン直後から買い優勢となる中、豪ドルも序盤から小高スタート。海外時間に入り発表された米9月非農業部門雇用者数の伸びが予想比を大幅に下回った為、発表直後に米金利は低下。しかし、前回分が上方修正され、さらに失業率は平均時給で強い数字が見られたことで、11月テーパリング開始の予想は変わらぬものとの見方から、米10年国債利回りは再び1.6%を目指し上昇し、米ドルはすぐに買い戻された。豪ドルは一時0.7338まで上昇したが、米ドル買い戻しの動きを背景に、再び0.7310に下落して越週した。

今週の豪ドルは底堅い推移を見込む。新型コロナウイルスの感染拡大によって、各都市では厳しいロックダウンが続いているが、ワクチン接種率の上昇に伴い徐々にロックダウンの解除が予定され、規制を緩和する動きにかわってきている。かかる状況下、求人データから経済再開の前に多くの企業が採用を模索していることが分かっており、本格的に経済の持ち直しが期待されている。一方で、数年にわたり低金利が維持されるとの認識を繰り返したRBAに対し、米国ではテーパリングから、早期利上げの可能性まで議論され始めており、政策の方向間の違いから、豪ドルは0.73レベルから大きく買われる場面は少ないだろう。今週は、12日(火)に豪9月NAB企業景況感、13日(水)に豪10月ウエストパック消費者信頼感指数、14日(木)には豪9月雇用統計の発表が予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(10/4～10/8)の値動き: (対ドル) 安値 0.7226 高値 0.7338 終値 0.7310
(対円) 安値 80.49 高値 82.08 終値 82.02



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。